

# 劣化の判定基準紹介

橋梁の点検

補修研修会 佐藤北大准教授が講演

札幌建協

橋梁の維持管理技術を  
知つてもらうため、札幌  
長は6日、道建設会館

で建設技術者を対象に点  
検・補修に関する研修会  
を開いた。同建設の自主

研究会で座長を務める北  
大大学院の佐藤靖彦准教  
授が講演し、劣化のメカ  
ニズムや検討を進めてい  
る新しい判定基準などを  
紹介した。

老朽化が進む公共施設  
の維持管理が重要なとなる  
中、橋梁点検・補修の知  
識を深め、同建設が独自

に取り組む「橋梁のトー  
タルマネジメントシステム」  
を理解してもらうことが  
目的。石狩管内の建設会社  
や建設コンサルタント会社、市町村から1  
52人が参加した。

トータルマネジメント  
システムは、同建設が2  
011年度に公共事業の  
創出モデル第2弾として  
構想を策定した。発注者



最新の研究成果などを紹介する佐藤准教授

が異なる橋梁を道路管理  
者と学識経験者、施工業者  
者、設計コンサルタント  
でつくる運営チームが効  
率的、効果的に維持管理  
を実現し、長寿命化を図り適切  
な架け換えを目指す。

独自の点検・補修マニュ  
アルを作成中。成果を維  
持管理に悩む全道の市町  
村に広める考えだ。

劣化については、土木  
学会が発行する12年度版  
コンクリート標準示方書  
の中でも、「性能の定量評  
価」と「維持管理限界  
値」という新しい概念が生ま  
れてくる。佐藤准教授は

橋道性能の予測方法とし  
て、自分が研究中の高度  
な数値解析法による評価  
と、「外観」に基づく評  
価で新たな概念への解決  
を試みている。

研修会で佐藤准教授  
は、名古屋大と中日本高  
速道路が共同で取り組む  
実物大模型「ニコーブリ  
ッジ」での最新劣化研究  
や、福島大が提唱し実践  
する産官学民による橋梁  
の協働保全の仕組みなど  
を紹介するとともに、「コ  
ンクリート単体ではなく  
複合体である「コンク  
リート構造物」として評価  
する視点が重要」と話し、  
研究会が作成中の判定基  
準などを中間報告した。